（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	つぼみステラ			
○保護者評価実施期間	令和7年4月15日		～	令和7年4月31日
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	60	（回答者数）	45
○従業者評価実施期間	令和7年4月15日		～	令和7年4月20日
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	10	（回答者数）	10
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年4月1日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	曜日ごとに特化した活動内容	保護者や利用児童児童の希望する内容と活動内容が一致するよう努めている また、自己肯定感を高め、成功体験・得意分野を繰返し日常生活に自信がもてるよう工夫している	各活動に対する児童の関心度や参加度が異なるため、児童が自ら積極的に関りたくなる工夫
2	外部の講師による専門的な活動	毎日異なる専門講師の指導により、専門度の高い活動を行うため児童の参画意識が高く児童が意欲的に取り組みやすい環境を整えている	活動をサポートしている職員の知識・技能を高め専門講師・職員の連携・協力を強化する
3	学校教育カリキュラムとの連動	パソコン教室や英語教室など学校で行っている教育内容と連動したた活動を実施	保護者や教員と家庭や学校での状況や活動内容の情報を収集し共有する事で、つぼみ滞在時間中の時間を効果的なモノとする

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	指導訓練室の面積	法令等で規定されている面積は確保できているが、リトミックやヒプホップダンスなど児童の動きが激しい曜日はスペースの狭さを感じる	児童のレベルに合わせ活動時間の入替え・職員の配置など安全を確保した上でのスペース確保改善
2	地域関連施設との連携強化	地域関連施設やイベントと連携し様々な場面で、日ごろの活動で身に着けた技術やスキルを発表する場へ積極的に参加し自信や仲間意識を醸成する	地域関連施設との積極的な連携強化に向け情報発信や情報の共有を図る
3			

（別紙４）

公表　保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	つぼみステラ

公表日 令和7年4月15日

利用児童数 60　回収数 45

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	42	2	1		座学（英語・パソコン・工作）時は十分なスペースだが運動療育にはもう少しスペースが欲しい	改善検討
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	44	1			十分な人数の指導員が毎日配置されているので職員配置は満足	継続
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	41	4			座学活動時と運動活動時は机や楽器のレイアウトが適切に変わるので満足	継続
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	42	3			座学活動時と運動活動時は机や楽器のレイアウトが適切に変わるので満足	継続
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	45				曜日により活動内容が異なり特化した指導してくれるので満足	継続
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか 。	45				適切に対応している	継続
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	42	3			個別支援計画の内容が抽象的な表現ではなく、具体的な項目になっているので分かりやすいく保護者からの要望も具体的に伝えやすい	継続
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援 」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	42	1	2		具体的な支援内容が示されている	継続
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	43	2			学習支援や自立支援の活動は勿論のこと児童が希望している得意科目や興味を持っている事に特化した活動になっている	継続
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	44	1			曜日ごとの活動はそれぞれ工夫を持たせ変化させている また、利用曜日を変える事で興味や知識の拡大が期待出来る	継続
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	25	15	5		子どもが習得した技能や知識を外部へ発表する場を増やして欲しい	地域関連施設との連絡協力を密にしながら発表や見学の場を広げていきます
保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	45				事業所見学時に詳しい説明があった	継続
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	45				個別支援計画は面談時に計画の内容を示すと同時に、保護者からの要望を聞き取り修正後に説明があった	継続
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	22	15	8		家族への情報提供は面談・LINE・連絡帳・送迎時の報告等で伝えているが、家族を含めた研修は行っていない	家族に対する情報発信や研修方法の具体的改善策を勧める
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	44	1			情報の共有を連絡帳・LINEを使って頻繁に行っている	児童の活動状況については、利用時の連絡帳と毎日のブログで迅速に伝え得ているがブログについては動画の活用が必要と思う
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	42	2	1		情報の共有を連絡帳・LINEを使って頻繁に行っている	出来る限り保護者との連絡を密にしている
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	44	1			共感的に支援していると思う	継続します
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	25	15	5		年1回保護者間交流の場が設けられているが機会を増やしてもいいと思う	継続します
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	44	1			家族からの相談の場を設けている また、家族からの相談を受け学校や地域施設と連携した支援会議も実施している	継続します
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	43	2			個別面談や連絡帳・LINEを使用し相談・連絡を密に行っている	継続します

	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	45				LINEや手渡しの「お知らせ」など頻繁にイベントや活動情報の発信がある また、医師による感染症対策などの情報が定期的に発信されるので役立っている	定期的に情報を発信しているが、保護者との相互連絡を迅速におこなうにはLINEの活用法を再考する必要がある
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	45				適正に管理されていると思う	継続します
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	42			3	事故防止・緊急対応・防犯マニュアルについては契約時に説明があった 感染症対策につてはクラブに常駐している医師から適時感染症対策の「お 知らせ」が伝えられる	マニュアル化はしているが、職員への周知徹底が更に必要
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	39		3	3	職員は定期的に訓練を実施しているが 児童を巻き込んだ訓練は行っていない	訓練を継続
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか 。	43	2			設備面・職員配置など安全対策は十分	継続
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	45				事故発生時は迅速に連絡がされている また、事故後の対処方（病院・保護者連絡）などしっかり行われている	継続
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか 。	40			5	行き渋りはないが、安心感があるかは分からない	継続
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	40	3		2	友達もたくさんいるようで毎回楽しそうに通っている	継続
	29	事業所の支援に満足していますか。	38	2	2	3	保護者の希望に適した活動曜日を利用しているので基本的には満足している	継続

（別紙５）

公表　事業所における自己評価結果

事業所名	つぼみステラ

公表日　令和7　年　4　月　15　日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	◎		法令で規定されているスペースは十分確保できている また、曜日ごとの活動に応じたスペースを工夫している	運動量が多い時のスペース確保
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	◎		法令で規定されている職員配置を満たしている	活動曜日ごとに機能訓練等専門度の高い職員の配置
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	◎		事業所入口・訓練室ともバリアフリーいなっているがトイレ入口と事務所入り口に段差がある	歩行等に不安がある児童などは個別に応じた配慮を行う
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	◎		児童の活動に合わせ可変型の空間になっている	活動により児童の習熟度が異なるため、各児童に適した指導の改善が必要
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか 。	◎		状況によりクールダウンや学校から持ち帰る宿題の量により個別の部屋を設けている	個別の部屋を設けている
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	◎		日々のミーテイング等の時間を使って療育の振り返り・改善に繋がるよう話あっている	定期的に実施している虐待防止研修などの内容は全体会議や日々のミーティングで職員間の共有をはかっている
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	◎		年１回の自己評価表や半年ごとのモニタリングの面談で保護者からの意見をいただき、その都度改善を行っている	改善事項は迅速に実行に移し、職員間で共有をはかっている
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	◎		毎月行っている全体会議の場で職員の意見提案を行っている	提案事項については出来る限るスピード感をもって具現化する努力をしている
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		◎	第三者評価行っていないが、相談支援事業所や学校・地域障害者施設等などの連携を頻繁に行い風通しのよい環境を作っている	地域障害者施設や地域住民との関わりを強くし、事業所で行っている活動を外部にアウトプットする場を広げていきたい
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	◎		外部研修については、就業時間中に積極的に参加するよう心掛けている また、研修で習得した知識や技能は事業所の会議・ミーテイングで発表し他職員との共有をはかっている	外部研修など集合研修だけに頼らず、日ごろのOJTや自己啓発など計画的に実施し職員全体のボトムアップをはかる
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか 。	◎		保護者との定期的な面談や必要に応じた相談を行い、保護や児童本人からのニーズを確認しプログラムを作成している	必要に応じて学校や相談支援事業所・関連機関などと連携し進めていく
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	◎		アセスメントツール等を参考にし、出来る限り専門的なアセスメントを行い個別支援計画に活かしている	今後も引き続きより良い支援が出来るよう、個別支援計画の見直しを行っていく
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	◎		各曜日の専門講師からの意見・提案も考慮し支援計画を組み立てている	支援計画を組み立てる際には、児童発達支援管理責任者だけの考え・意見に偏らず、他指導員の考え・療育方法も十分聞き取るようにしている
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	◎		個別支援計画の内容が文章だけではなく、具体的になっているので活動内容に職員間の誤差がなく、分かりやすく実行しやすい	支援活動項目の入替えや見直し頻度を頻繁に行うことで、児童の年齢や特徴に応じスキルアップできるよう工夫する
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。				
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	◎		個別支援計画は「提供すべき支援」「本人支援」「家族支援」「移行支援」「地域支援」を意識して項目を組立てている	個別支援計画は「提供すべき支援」「本人支援」「家族支援」「移行支援」「地域支援」を意識しているが、具体的な活動項目との連動には至っておらず今後の課題となっている
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	◎		支援ミーティングの場で企画・立案を行っている	職員の雇用形態（フルタイム職員・短時間職員）にかかわらず自分の考えや意見を遠慮なく出せる環境をづくりを行っていく
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	◎		つぼみ職員だけではなく、外部の専門講師を交えマンネリ化しないようにプログラムを組みた手ている	今後も継続して工夫改善を行う

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	◎		毎日、来所時から16：00までを個別活動（学習支援・自立支援・基礎療育等）、16：00から16：50を集団活動としている	今後も継続して実施する
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	◎		来所児童に対し担当職員を決めているため、責任の所在・役割分担が明確になっている	今後も継続して実施する
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い､気付いた点等を共有しているか。	◎		支援に対する結果・課題・改善策についての振り返りは翌日必ず実施している 送迎の終了時間が19：15～19：30のため就業時間外の残業は行わず翌日の午前中に実施している	児童に対する振り返り・注意点・留意点は他事業所とも共有し支援の内容を高めるようにしている
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	◎		支援内容については日誌を必ず付けている	今後も継続して実施する
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	◎		少なくても半年に1回以上、モニタリングを行い計画を策定している	モニタリング策定時は事業所内で会議を開き職員間の意見・見直しを行っている
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	◎		児童発達支援管理責任者・管理者・場合によっては該当児童をよく担当する担当職員が参画している	今後も継続して実施する
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	◎		地域の関連事業所・学校との連携を密にとっている	保護者・学校・支援員を交えた支援会議を行い児童の支援方法などの情報交換を行っている
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	◎		地域の関連事業所・学校との連携を密にとっている	保護者・学校・支援員を交えた支援会議を行い児童の支援方法などの情報交換を行っている
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	◎		地域の関連事業所・学校との連携を密にとっている	保護者・学校・支援員を交えた支援会議を行い児童の支援方法などの情報交換を行っている
	28	（28～30は、センターのみ回答） 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	（31は、事業所のみ回答） 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか 。	◎		地域の中核支援センターとの連携を密にし事業所への訪問や児童に対す支援相談を行っている	今後も継続して実施する
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		◎	現在は行っていない	活動の成果を発表する場を広げていきたい
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	◎		送迎時の報告やブログ・LINE・連絡帳で活動内容については保護者と共有し改善に努めている	現状以上に活動の詳細をスピデイーに伝え、次回利用時の改善に繋がるようにしたい
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		◎	現在は行っていない	今後家族等が参加出来る研修を検討していく
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	◎		事業所見学時・利用契約締結時に行っている	今後も継続して実施する
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか 。	◎		個別支援計画作成時には、保護者からの意見・要望を反映し策定している	個別支援計画・モニタリング策定時は保護者の意見・要望を反映している
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	◎		内容を説明して同意を受けている また、個別支援計画の内容と保護者からの要望に誤差が生じた場合は速やかに修正し再提案を行っている	今後も継続して実施する
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	◎		保護者からの相談や悩みを受けた場合は、守秘義務を厳守しながら関連機関などの助言を受け対応している	今後も継続して実施する

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		◎	保護者間の情報交換の場を年1回定期的に設けていたが、コロナ拡大以降現在まで中止にしている	感染症拡大の状況を見ながら再開したい
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	◎		保護者の立場にたって可能な限り迅速に対応している	事業所内の知識・対応力だけに限らず地域関連機関との連携を密にし、日頃から情報収集の場を広げ最適な対応が出来るようにする
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	◎		毎日のブログ発信に加えLINEのイベント発信・医師による「感染症予防便り」など各種のツールを使って情報発信を行っている	今後も継続して実施する
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	◎		個人情報については十分注意して取り扱っている	今後も継続して実施する
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	◎		児童や保護者に合わせて、写真や絵・画像を使って理解しやすいように工夫をしている	児童が理解できたかなど確認しながら意思疎通をはかっている
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		◎	事業所のイベントに地域住民が来所した事はないが、地域関連施設などに出向き地域の活動に参加した事はある	地域の関連施設で日ごろの活動成果を発表出来るように検討していく
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	◎		各種マニュアルを作成しいつでも閲覧出来るようになっている　また、定期的にマニュアルを確認する場を設けている	マニュアルが形骸化する事がないようミーティングや会議で定期的に確認している
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	◎		業務継続計画を策定し非常時の対応について避難・誘導の訓練を行っている	時間的な制約があり、現在は職員だけで訓練を行っているが、今後は児童を含めた訓練を実施したい
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	◎		利用契約時に服薬・てんかん発作の情報を保護者より書面でもらい全職員で共有している	今後も継続して実施する
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	◎		利用契約時に食物アレルギーの情報を保護者より書面でもらい全職員で共有している	おやつの提供があるので食物アレルギーについては十分注意している
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	◎		安全計画を策定しいつでも職員が確認できるよう事業所内に備えている	安全計画が計画だけで終わる事がないよう、研修や会議ミーティングを利用し定期的に確認している
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか 。	◎		利用契約時に保護者へ安全計画・安全対策の説明をしている	今後も継続して実施する
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	◎		ヒヤリハットの事象が生じた場合は速やかに原因を確認し今後の改善対策を行っている	今後も継続して実施する
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	◎		東京都で実施する虐待防止研修で学んだ事を全職員へ共有している また研修で習得した知識を社内の会議・ミーテングで確認し適切な対応を徹底している	今後も継続して実施する
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	◎		他児童への危険回避を考え緊急的にかつ一時的にやむを得ず身体拘束を行う場合は、保護者へ説明をし了解を得ている	今後も継続して実施する